

企業活動の進め方 I

企業活動の手法と仕組みづくり

日時：平成22年9月19日（日） 10:00～12:00

講師：木俣 知大（社団法人国土緑化推進機構 森づくり Kommission 全国協議会）

概況



◎企業活動の手法と仕組みづくり(AM)

・地球環境問題と森林の役割

京都議定書で日本が温室効果ガスの削減を約束した6%の約3分の2にあたる3.8%は、国内の森林で吸収する必要がある。森林は、豊かな水や生態系を育み、日本の環境を支えてきた。しかし、いまでは林業に携わる人も山村に住む人も減り、手入れが行き届かなくなり、森のチカラが弱まっている。日本の森の本来のチカラを取り戻すためには、手入れを必要とする多くの森林に、人が積極的に関わり、育てる必要がある。いまこそ、森に手を入れ、使い、育てるというサイクルを取り戻し、森林本来のチカラを発揮させることが必要である。

・「フォレスト・サポーターズ」の取組

森林の力を取り戻すために始められた「美しい森林づくり推進国民運動」を全国各地で幅広く展開していくために、林業に携わる人や山村に暮らす人や企業・団体などが「フォレスト・サポーターズ」というプラットフォームのもとに集い、お互い手を携えながら、「森にふれよう」「木をつかおう」「森をささえよう」「森と暮らそう」の4つの活動を行うとともに、幅広い方々の参画を進め、森林をサポートしている。

・「企業の森づくり」を巡る状況

地球温暖化防止や生物多様性の保全などの観点から、森林の役割に対する社会的な関心が一層高まる中で、「企業の社会的責任(CSR)」としての環境活動として、多くの企業が森づくりに関心を持ち、活動を進めている。

・「企業の森づくり・森林活用」の取組

一人ひとりが森林を自分たちの共通財産と考え、それぞれの立場で、可能な方法で、森づくりへ参加することを期待する緑の羽募金や企業の社員やその家族の主体的な生活習慣の改善や、快適な職場・家庭環境の形成の支援を図る森林セラピーなどがある。・先進的な複合的な取組 森づくり活動は、コーディネート次第で多様な価値「人づくり」「地域づくり」といった活動への展開が可能である。また、複数の価値を発揮させることで、多様なニーズを持つ参加者の獲得や、関連団体等との連帯が可能である。

・企業活動を振り返る I

CSR 全般の重要度を書く。別の色で森林に係る活動について書く。実施している活動を記入。色を分ける。以上の作業を実施して企業の森づくり活動を振り返った。

◎企業活動を振り返る II (PM)

企業の森づくりを行う目的の再確認をするために活動理由書を作成した。